第13回

東京ゴルフ倶楽部110年

朝日新聞【埼玉版】

2024年（令和6年）1月17日（火）掲載

第3種郵便物認可　朝日

東京ゴルフ倶楽部110年 13

戦中 幾多の名コースが

国策 東京GCも消滅危機

神奈川県藤沢市。小田急江ノ島線・善行駅の目の前に、広大な「神奈川県立スポーツセンター」が広がる。敷地のほぼ中央に、「グリーンハウス」と呼ばれるスペイン様式の古い建物がたたずんでいる。白い壁と緑の屋根が、周囲の木々に溶け込んでいる。

この一帯は戦前、「藤沢カントリー倶楽部（CC）」という名門コースだった。グリーンハウスは、そのクラブハウスだ。設計はアントニン・レーモンド。レーモンドの物語は、小欄の連載第1回で描いた。

東洋一の規模とたたえられた「武蔵野カンツリー倶楽部」の藤ケ谷コース。戦中は陸軍、戦後は米軍に接収され、海上自衛隊下総航空基地に姿を変えた＝1966年12月3日、現在の千葉県柏市藤ケ谷

立地の良さ災い

1932（昭和7）に開場した藤沢CCは、各ホールから富士山や江の島、三浦半島が望め、「関東で最も眺望のいいコース」といわれていた。38年には男子ゴルフの最高峰「日本オープン」が開催された。

しかし、その立地の良さが災いしたという。旧日本海軍に接収され、コースは閉鎖。クラブハウスには航空隊の司令部が置かれた。戦後、ゴルフ場として復活することはなかった。

ほかにも、戦時中に東京やその周辺で数多くのコースが消えていった。

東京23区内で唯一の渓谷である「等々力渓谷」（世田谷区）をご存じの方もいるだろう。渓谷に架かる橋が、かつてあった「等々力ゴルフコース」の面影を伝えている。橋の名を「ゴルフ橋」という。

「学士会」「六郷」「久里浜」「浮間ケ原」といったゴルフ場も消えた。

堤氏に狙われた

45年1月。東京ゴルフ倶楽部（GC）も「消滅」の危機に直面した。

「食糧増産株式会社」が、国策の名のもとに、敷地全部の譲渡を求めてきた。社長は堤康次郎氏。西武グループの創始者だ。

倶楽部は、この申し入れを拒否。東京GCのある役員は戦後、こう述懐した。

「戦時中、最も不愉快なことは、堤康次郎氏にコースの敷地が狙われたことであった。（中略）もし下手をすると、今ごろは西武電車の車庫にでもなっていたかも知れない」

西武は、戦後に皇籍を離脱して免税特権を失った旧皇族から、その所有地を次々と買い集めたことでも知られる。東京GCの名誉総裁だった朝香宮鳩彦王（あさかのみややすひこおう）の旧邸を買収したのも西武鉄道だ。現在の東京都庭園美術館（港区白金台）である。

東京GCは、戦後もゴルフ場として生き残ることができた。しかし、終戦と同時にアメリカ軍の接収が始まった。（抜井規泰）

第14回

東京ゴルフ倶楽部110年

朝日新聞【埼玉版】

2024年（令和6年）1月23日（火）掲載

第3種郵便物認可　朝日

東京ゴルフ倶楽部110年 14

ゴルフの魔力 米軍にも

敗戦後 接収の功罪

ゴルフ発祥の地とされるスコットランドで、1457年に「ゴルフ禁止令」が出された。国民がゴルフに熱中し軍事訓練に身が入らなかったため、ゴルフそのものを禁じたのだ。禁止令は45年後に、2代のちの王によって解かれた。国民に禁じている立場の王様本人が、ゴルフのとりこになってしまったからだという。

ゴルフは、値の張る道具をそろえるなど、新たに始めるにはハードルが高い。だが、その面白さを知ると何としてもやりたくなる魔力がある。東京ゴルフ倶楽部（GC）が設立されたのも、大蔵大臣などを歴任した井上準之助が米国勤務中にその魔力に取りつかれたからだ。

接収解除の契約を取り交わす日米の関係者＝1953年5月10日

接収が解除され、日の丸がひるがえるクラブハウス前。看板はまだ米軍横田基地を意味する「YOKOTA GOLF CLUB」とある＝いずれも東京ゴルフ倶楽部提供

敗戦後の日本を占領したアメリカ兵たちも、余暇にゴルフを求めた。

日本人を「制限」

マッカーサーが厚木に降り立ったのは、1945年8月30日。わずか33日後、東京GCは米軍に接収された。ほかにも霞ケ関、小金井、川奈・富士、名古屋・和合など、名だたるコースが次々と接収された。

51年9月にサンフランシスコ講和条約が調印され、翌52年4月の条約発効が近づき、ようやく接収が解除された。それまで6年余、コースの「所有者」であるはずの日本人会員のプレーは厳しく制限されていた。

東京GCには、会員から預かった道具が数多くあった。米軍はそれらの持ち出しも禁じた。接収当初、米兵たちは母国からゴルフクラブなど持ってきてはいない。クラブ計135セットのほか、ボールや靴まで「接収」された。初心者の米兵が道具を壊してしまうことも多々あったという。49年11月には、火災予防と称してロッカー室やボイラー室などを勝手に破壊する「事件」も起きている。

施設を維持・拡充

ただ、東京GCの水野勝之・史料室部会長（80）は「接収の功罪は、罪より功の方が大きかったのではないか」と語る。

接収中、米軍からはコースや施設、道具の使用料が支払われていた。また、戦中に金属として供出させられた散水用の配管も、米軍は新たに埋設して復旧させた。コース内で借地のままだった土地を買収するなど維持管理を続けていた。

水野さんは「終戦直後の日本人の力だけでは、ゴルフ場として維持できなかったはず」と振り返る。

コースを設計した大谷光明は、戦前にこう述懐している。「決して私の会心の作ではなく、むしろその反対の失敗の連続」「まずいコースを造り上げた」。敷地面積が十分ではなく、窮屈な土地に各ホールを押し込むような設計だった。

米軍が、敷地を拡充させた。接収解除後に改修を重ねた東京GCはいま、国内最高峰に数えられている。

（抜井規泰）

第15回

東京ゴルフ倶楽部110年

朝日新聞【埼玉版】

2024年（令和6年）1月30日（火）掲載

第3種郵便物認可　朝日

東京ゴルフ倶楽部 110年 15

アメ横 ゴルフ復興の起点

高度成長期 用品店並ぶ

戦後の混乱が少し落ち着くと、我慢し続けていた人たちが再びゴルフを求め始めた。とはいえ、ゴルフ店などどこにもない。そんな貴重なゴルフ用品を買えたのが、「アメ横」だった。

成り立ちに2説

東京都台東区の上野駅～御徒町駅の線路わきに、小さな店が肩を寄せ合うよう並ぶ、アメ横。その語源は2つの説が知られている。

①砂糖などない終戦直後に、飴を売る商人が集まった「アメ屋の横丁」

②アメリカ軍の払い下げや横流しなどの舶来品が集まる「アメリカ屋の横丁」

「2説とも正しいんですよ」。そう語るのは、アメ横商店街連合会名誉会長の二木忠男さん(70)。アメ横を中心に事業展開する「二木の菓子」「二木ゴルフ」の創業家の一員だ。

二木さんによると、アメ横の成り立ちは、こうだ。

戦後の物資統制の時代。食料などを隠れて売る人たちがここに集まり、ヤミ市が生まれた。人工甘味料やサツマイモで作った飴を売る人もいた。早朝に警察の取り締まりがあったので、店は深夜に始まり、日の出とともに店を畳んだ。暗闇の中なので「ヤミ市」。

上野駅は北の玄関口だ。北関東や東北から、野菜や穀物などを詰め込んだ一斗缶を背負った人たちがやって来て、上野駅前のヤミ市でそれを売った。そのお金で当時は貴重だった飴を買い、地元で売ったという。

「アメ横」の上野側は、いまも菓子や魚介、乾物など、食品関係の店が多い。

一方、御徒町側では米軍の払い下げ品などの舶来品が売られるようになった。

いまも、海外ブランドの化粧品や万年筆、革製品、ミリタリーグッズなど、輸入雑貨の店が多い。

「だから、アメ横の語源は『アメ屋』も『アメリカ屋』も、両方正しいんですよ」と二木さん。

アメ横が、日本のゴルフ復興の起点となった。

二木忠男さん

「アメヤ横丁」と記された上野側のアーチ看板

「アメ横」と記された御徒町側のアーチ看板

戦後混乱期経て

まだ戦後の混乱の中、御徒町側でゴルフ用品が売られ始めた。1950年に朝鮮戦争が勃発し、日本から朝鮮半島に向かう米兵が手放した中古クラブなども売られたという。高度成長期には「二木ゴルフ」のほか、「コトブキゴルフ」や「シントミゴルフ」などの有名店がひしめいた。

何十年も前から、アメ横には三つのアーチ看板が架けられている。御徒町側の二つのアーチには、「アメ横」とある。しかし、残る一つは――。

20年ほど前、看板を「アメ横」に統一しようという声が出たという。だが、アメ横商店街の会長だった二木さんは「アメ屋とアメリカ屋、両方の歴史を残したい」と反対した。

上野側の看板には、いまも「アメヤ横丁」の文字が輝いている。

（抜井規泰）

第16回

東京ゴルフ倶楽部110年

朝日新聞【埼玉版】

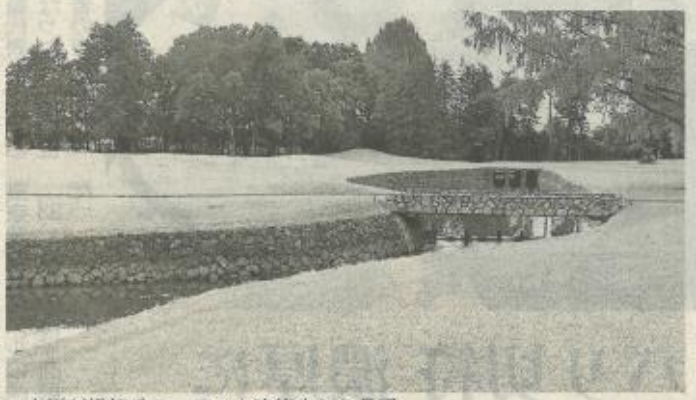
2024年（令和6年）2月6日（火）掲載

第3種郵便物認可　埼月

時が流れ 戻ってきた小川

東京ゴルフ倶楽部 110年 16

5番ホール横切る 絶妙な障害



小川が横切るコースへと改修された5番

朝霞にあった東京ゴルフ倶楽部（GC）は、戦中に日本軍から半強制的に買い取られた。名設計家のチャールズ・アリソンが手がけたコース、それに名建築家のアントニン・レーモンドのクラブハウスは、この時に失われた。

移転先の狭山で、大谷光明はアリソンの哲学を受け継ぎ、コース設計にあたった。ただ、敷地の手狭さから窮屈な設計となり、大谷は決して満足してはいなかった。

敗戦後に暗渠に

敗戦後、東京GCは接収され、米軍によって改修が加えられた。

米軍は、戦中の金属供出で取り上げられた散水設備を復旧させ、借地だった一部の土地を買い上げるなど、ゴルフ場としての整備に貢献した。一方で、東京GCの水野勝之・史料室部会長(80)は、上級者には物足りないコースに改修されたと語る。

戦中の開場当初から、東京GCのコース内には農業用水路が流れている。

この小川が、初心者には大きな障害となる。ゴルフクラブでボールの赤道面近くを打つ「トップ」というミスを犯すと、ボールは地面を勢いよく転がって小川にのみ込まれてしまう。

米軍は川にフタをし、地面の下を流れる「暗渠」に改修。さらに、アリソンや大谷の設計の特徴である巨大なバンカーを埋めてしまった。

名設計家が改修

2009年、東京GCはコースに大規模改修を施した。手がけたのは、米国人設計家のギル・ハンス。アリソンの師匠であるハリー・コルトを研究した設計家だ。改修はアリソン、そして大谷光明の設計哲学への回帰に主眼が置かれた。

パー5の5番ホールの農業用水の暗渠は、石造りの橋が架かる小川に改修された。グリーン手前約100㍍（約90㍍）地点を横切っており、ちょうど2打目が川に落ちかねない絶妙な障害物となっている。

ハンスは京都の桂離宮や金閣寺などを訪れ、敷地外の遠景まで取り込む日本の「借景」も学んだ。東京GCはハンスの手により、各ホールからの眺めの美しさにもこだわったコースへと進化を遂げる。

ハンスは、112年ぶりにゴルフが五輪競技に復帰した16年リオ五輪のコース設計者でも知られる。そんな世界的なコース設計家が、なぜ東京GCの改修を引き受けたのか。

日本からの依頼はいくつもあったが、日本で仕事をするなら一番古い歴史を持ち、アリソンが関わった東京GCでしかやらないと決めていたと、のちに語っている。ハンスは図面での設計だけでなく、自らブルドーザーを操縦し、東京GCの改修に没頭していたという。

（抜井規泰）

第17回

東京ゴルフ倶楽部110年

朝日新聞【埼玉版】

2024年（令和6年）2月20日（火）掲載

第3種郵便物認可　朝日

東京ゴルフ倶楽部 110年 17

立ちはだかる砂・砂・砂

東京ゴルフ倶楽部（GC）のコース最大の特徴は、バンカーだ。

まずは、その数の多さ。18ホールで117個が口を開けている。バンカー群に囲まれ、グリーンがまるで浮島のようになっているホールも多い。

大瀧守彦・広報委員長(69)は、思い入れのあるコースに最終18番ホール（パー4）を挙げる。

「往復ビンタ」というゴルフ隠語がある。乗せようと思っているグリーンを挟んで、行ったり来たりしてしまうミスを指す。「好スコアで18番を迎えたのに、往復ビンタで大崩れ――。それを何度やったことか。愛憎相半ばするホールですよ」と笑う。

多くて大きい バンカー群

バンカーの多さ、大きさ、そしてアリソン・バンカーが東京GCの特徴だ

飛ばし屋も重圧

バンカーの大きさも、東京GCの特徴だ。

13番（パー5）の3打目地点には、コースの左手前から右奥へ横切るように、100㍍近くバンカーが連なっている。これだけ長大だと、非力な人にも飛ばし屋にも等しく「バンカーに入ってしまうかも」という重圧を与える。

この「左手前から右奥へのバンカー」が、コースを手がけた大谷光明と、大谷が手本とした英国人設計家チャールズ・アリソンの設計の特徴だという。

連載第9回で触れたが、大谷は、今から102年前に昭和天皇と一緒に英皇太子とのプレーを楽しんだ名ゴルファー。アリソンは、東京GCが狭山に移転する前の「朝霞コース」（跡地は現在の陸上自衛隊朝霞駐屯地）の設計者だ。

ゴルフ初心者の多くは、「スライス」や「フェード」という右に曲がる球を打つ。上級者は飛球の頂点付近から軽く左に曲がっていき、落ちてからもよく転がって距離が出る「ドロー」という球を打つ（いずれも右打ちの場合）。

右奥へと続く東京GCのバンカーは、フェードだと打球がバンカー上空を通過し続けるため、つかまる確率が高い。一方、ドローならバンカーを横切るので危険が少ない。大瀧さんは「『ドローを打てるようになれ』と、アリソンや大谷光明が語りかけているような気がします」と語る。

管理は手作業で

また、東京GCといえば「アリソン・バンカー」だ。ボールを入れてしまうと、まるで壁がそびえているような深いバンカーを指す和製英語であることも、第9回で触れた。ただ、東京GCによると、アリソン・バンカーというのは単に深いバンカーではなく、上から芝が垂れ落ちるように壁の中腹まで覆っているのが本来の姿だという。

その美しさは格別なのだが、グリーンキーパーによると、「メンテナンスが本当に大変なんですよ」。そそり立つ壁に生える芝は機械では刈ることができず、すべて手作業で管理しなければならない。

日本ゴルフ協会（JGA）は今秋、創立100周年を迎える。節目の今年、東京GCは男子ゴルフの最高峰「日本オープン」を開催する。（抜井規泰）